

保健体育科

- 事例 1** 体育「球技（サッカー）」における指導の工夫
～ 主体的で対話的な学びによる公正、協力、責任の態度の育成 ～
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 108

- 事例 2** 保健「健康の保持増進と疾病の予防」の指導の工夫
～ 対話を通じた深い学びを目指して ～
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 114

研究協力委員

栃木県立大田原女子高等学校

教諭

久保田 由 佳

栃木県立矢板高等学校

教諭

高 井 剛

研究委員

栃木県総合教育センター研修部

指導主事

板 橋 美 季

はじめに

次期学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現が大きな柱の一つとして挙げられている。「主体的・対話的で深い学び」の実現、特に「深い学び」の実現に向けては、学習過程で各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせることが重要であり、「見方・考え方」を軸とした幅広い授業改善の工夫が展開されることが求められている。

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中央教育審議会 平成 28 年）（以下答申）では、「見方・考え方」について次のように示されている。

見方・考え方とは、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方である。学びの過程では、“どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか”という、物事を捉える視点や考え方も鍛えられていく。こうした視点や考え方には、教科等それぞれの学習の特質が表れる。見方・考え方は、各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものとして、教科等の教育と社会をつなぐものである。その教科をより深く理解していくためのアプローチとも言われている。

【体育の見方・考え方】

運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること

【保健の見方・考え方】

個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること

また、学習指導要領の改訂に向けて、体育科、保健体育科における平成 20 年改訂の学習指導要領の成果と課題について、答申において次のように示されている。

生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することを重視し、体育と保健との一層の関連や発達の段階に応じた指導内容の明確化・体系化を図りつつ、指導と評価の充実を進めてきた。その中で、運動やスポーツが好きな児童生徒の割合が高まったこと、体力の低下傾向に歯止めが掛かったこと、「する、みる、支える」のスポーツとの多様な関わり方の必要性や公正、責任、健康・安全等、態度の内容が身に付いていること、子供たちの健康の大切さへの認識や健康・安全に関する基礎的な内容が身に付いていることなど、一定の成果が見られる。

他方で、習得した知識や技能を活用して課題解決することや、学習したことを相手に分かりやすく伝えること等に課題があること、運動する子供とそうでない子供の二極化傾向がみられること、子供の体力について、低下傾向には歯止めが掛かっているものの、体力水準が高かった昭和 60 年ごろと比較すると、依然として低い状況が見られることなどの指摘がある。また、健康課題を発見し、主体的に課題解決に取り組む学習が不十分であり、社会の変化に伴う新たな健康課題に対応した教育が必要との指摘がある。

以上を踏まえて、本研究では次の二つの授業実践に取り組んだ。

事例 1では、「主体的・対話的で深い学び」により、公正、協力、責任の態度を育成することを目指した授業実践を報告する。

事例 2では、生徒が健康課題を発見し課題解決に取り組む学習活動について、「対話的で深い学び」の視点から授業改善を行った授業実践を報告する。

事例1 体育「球技（サッカー）」における指導の工夫 ～ 主体的で対話的な学びによる公正、協力、責任の態度の育成 ～	
単元名	球技(サッカー)
これまでの課題	体育の授業において、公正、協力、責任等の態度を育成することは重要な目標の一つである。しかし、体育（スポーツ）において、活動をしさえすればこれらの態度が育まれることは当然のこととして認識している面があり、公正、協力、責任の態度の育成に着目して授業改善を図ることは少なかったのが現状である。
授業改善のポイント	公正、協力、責任の態度の育成には、その性質上、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が有効であると考えた。そこで、1時間の授業の流れをM(マッチ)－T(トレーニング)－M(マッチ)とし、生徒が主体的に仲間と協力し、対話しながら活動できる場を多く設定した。

1 指導観

(1) 本単元について(教材観)

サッカーは、主に足を使ってボールを操るゴール型の球技である。フィールド上に攻撃と防御が入り交じるため、1対1の個人技能だけでなく、チームとしての連携した動きや戦術、状況判断が重要となる。本単元においても、仲間との連携した動きを重視し、試合を中心に据えながら、仲間と協力したり教え合ったりする学習活動を実施していきたい。

(2) 生徒の実態（生徒観）

本校は、純朴で明るい性格の生徒が多いが、授業に対する姿勢は受動的な傾向がある。また、新体力テストでは全国平均を下回っている項目が多く、特に瞬発力や持久力が低い。サッカーを通して、仲間と協力しながら物事に主体的に取り組む姿勢を育むとともに、運動量を確保しながら体力や技能を高める指導をしていきたい。

(3) 生徒に身に付けさせる力（育成を目指す資質・能力）

- ・安定したボール操作と空間を作り出すなどの連携した動きによって、ゴール前への侵入などから攻防を展開できるようにする。
- ・主体的に取り組むとともにフェアなプレイを大切にしようとする、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、健康・安全を確保することができるようにする。
- ・技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解し、チームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。

2 単元の計画

(1) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
①フェアなプレイを大切にしようとしている。 ②自己の役割を引き受け責任を果たそうとしている。 ③互いに助け合い教え合おうとしている。 ④健康・安全を確保している。	①自己や仲間の技術的な課題を見つけ、有効な練習方法を選択している。 ②チームや自己の課題を把握し、作戦や戦術を選択している。	①安定したボール操作ができる。 ②空間を作り出す動きによって空間への侵入などから攻防を展開することができる。	①安全で合理的な練習の仕方について書き出している。 ②技術の名称や行い方について学習した具体例を挙げている。

(2) 単元の計画を立てるに当たって

本事例では、単元を通して1時間の授業の流れをM(マッチ)ーT(トレーニング)ーM(マッチ)となるように計画した。それぞれの時間の目標に対して、最初の試合(M)で出た課題を解決するために練習をする。練習(T)は、基本的には仲間と教え合うグループ学習になるようにする。そして、最後の試合(M)において課題に対して挑戦する流れである。このことによって、授業中の多くの時間を、生徒が仲間を意識し協力する活動とすることができる。

また、最初にゲームを行い課題を生徒自身で見つけることで、目標を明確にし、見通しをもたせ、主体的な学びにつなげることもMーTーMを取り入れた理由の一つである。

さらに、このMーTーMの授業における指導のポイントを以下の四つとした。

	指導のポイント	公正、協力、責任の態度との関連
1	「教員による問いかけ(コーチング)」 〔対話的な学び〕	
2	「人を選ばないチーム作り」 〔主体的な学び〕	
3	「仲間と教え合うグループ学習」 〔主体的な学び、対話的な学び〕	
4	「対戦相手等を配慮したルール作り」 〔主体的な学び、対話的な学び〕	

(3) 単元の指導と評価の計画

時	目標	学習活動	評価の観点				評価方法
			関	思	技	知	
1	健康・安全を確保した学習の仕方を理解する。	○オリエンテーション ○3分間ゲーム (チーム作り→対戦相手の決定→コート作り→ルール作り→ゲーム)				①	観察 ワークシート
2	サッカーの特性や学習の仕方、ルールや役割を理解する。	○3分間ゲーム →サッカーの基本的なルールを確認する。 →試合を成立させるための一人一人の役割を考える。	④			①	観察 ワークシート
3	シュートの打ち方を考える。	○3分間ゲーム【M】 ○シュート練習(教え合い)【T】 ○ゲーム【M】	③	①			観察 ワークシート
4	フェアプレイを大切にしながら、仲間と協力して活動する。	→拮抗した試合になるようなルールを考える。	①		①		
5 本時	パスをつなぐにはどうすれば良いか考える。	○3分間ゲーム【M】 →拮抗した試合になるようなルールを考える。	③	①			観察 ワークシート
6	フェアプレイを大切にしながら、仲間と協力して活動する。	○ボール2個パス交換(教え合い)【T】 ○ボール2個ボール回し(教え合い)【T】 ○ゲーム【M】 →課題に挑戦できるようなルールを考える。	①		①		

7	ワンツーやドリブルの活用方法を考える。 フェアプレイを大切にしながら、仲間と協力して活動する。	○3分間ゲーム【M】 →拮抗した試合になるようなルールを考える。 ○ドリブル競争(教え合い)【T】 ○ミニゲーム(2対1)【M】 →ワンツーのやり方を考える。	③	①			観察 ワークシート
8			①		①		
9	戦術の基本を理解する。 自他の役割を意識して活動する。	○ゲーム(4対4) →ポジションを意識し、戦術を考える。	②			②	観察 ワークシート
10	チームとしての戦術を工夫する。 自他の役割を意識して活動する。	○ゲーム(4対4)【M】 ○チーム練習【T】 →試合で出た課題を解決するための練習やポジションを考える。 ○ゲーム(4対4)【M】	②	②			観察 ワークシート
11	仲間と協力してゲームを行う。	○ゲーム(4対4) →試合ごとに仲間・対戦相手・ルールを変える。 →個人の勝ち点の合計で勝敗を決める。			②		観察

3 授業の様子

今回の取組は、単元を通しての取組であるが、そのうちの1時間(11 時間中の5時間目)を取り出して授業の様子を述べる。

この時間もM-T-Mの流れで授業を行っており、目標は「パスをつなぐにはどうすれば良いか考える。」「フェアプレイを大切にしながら仲間と協力して活動する。」である。

段階	学習内容・活動	指導上の留意点及び評価
展開	○3分間ゲーム ・3分間×2本実施 ・得点ルール 「パスを2本つないだらシュートを打てる」 ○パスの課題練習 (教え合い・伝え合い) ・タイミングをつかむ練習 (2人1組ボール2個) ・見て判断する練習 (5人1組ボール2個) ○ゲーム ・課題に挑戦でき、さらに拮抗したゲームになるルールを考えて行う。	・生徒にチームを決定させる。今まで組んでいない者同士で組むように促す。 ・拮抗したゲームになるようルールを考えさせる。 ・ゲーム中に、どこを見ていつパスをすれば良いか考えながらプレイさせる。 ・どうすればパスがつながるか考えさせる。また、なぜ失敗したかを考えさせる。 ・生徒にチームを決定させる。今まで組んでいない者同士で組むように促す。 【関心・意欲・態度③】 声をかけ合いながら、協力してプレイしようとしている。また、なぜ失敗したかを考え仲間と話し合おうとしている。(観察)

まとめ	○まとめ ・振り返りと次時の課題	・本時を振り返り、自己や仲間の課題や課題に対する練習方法についてワークシートに記入させる。 ・パスをつなぎながら得点するために、ドリブルの必要性を理解できるように促し、次の授業につなげる。 【思考・判断①】 自己や仲間の技術的な課題を見付け、有効な練習方法を選択している。(ワークシート、観察)
-----	---------------------	---

はじめに、ゲームを行うためにチーム作りをさせた。指導のポイント2の「人を選ばないチーム作り」である。チームを作る時間とゲームの時間を合わせて「3分という時間の制約」と「同じメンバーのチームはつukらない」という2つの制約を設けた。当初は、生徒は気の合う仲間としか組めず、どのチームにも入ることができないでいる生徒同士で声をかけられないまま、試合をせずに3分間が過ぎてしまう状態を繰り返していた。しかし、「試合ができなくて残念だったね。どうしたら試合ができると思う？」という教員側の問いかけにより、次第に誰とでも組むことができるようになった。生徒は、人を選んでいては試合が成立しないこと、自分のチームだけでなく、他のチームの状況も見ながら協力し合わなければうまくいかないことに気付くことができた。

3分間ゲームでは、教員が「パスを2本つないだらシュートを打てる」というルール設定を行ったことで、「パスが繋がらない」「ボールに集まりすぎてしまう」「ボールを思った所へ蹴れない」などの課題が生徒たちから挙がった。その課題を解決するためのパスの課題練習が指導のポイント3の「仲間と教え合うグループ学習」である。

一つ目の課題練習（2人1組、ボール2個のパス交換）では教員側からコツは教えずに、達成目標だけを口頭で伝えた。生徒たちが、どうすればできるようになるのかを考えることで、主体的な学びを目指したからである。どうしてもうまくいかない場面については、教員側が「タイミングを合わせるにはどうしたらよいか」という問いかけをすることにより、「お互いの蹴るタイミングを少しずらす」ことや「自分たちが動いて距離間を調整する」など様々な意見が出てきた。さらに、動きのポイントを押さえている生徒と教員で見本を見せたことが、生徒たちにとって比較し判断する材料となり、活気ある対話と練習につながった。生徒たちは相手の動きを見ながらプレイすることや、相手のプレイによって自分のプレイが決まることを理解することができたようである。

また、意見を出した生徒は積極的に他の生徒に教えたり、意見を出せなかった生徒は積極的に教わろうとしたりするなど、その場でのそれぞれの役割を理解し行動する姿が見られた。

二つ目の課題練習（4対1、ボール2個のパス回し）では、「何を見ればパスが回るか」「パスコースはいくつ作れるか」という問いかけに対し、「ディフェンダーの動きを見る」「味方の動きを見てパスをする」「ボールをもっている人を見て助ける」「2つのボールの位置関係を考える（対角を意識する）」など、教員側が答えを出さなくても、パスを回すために必要な要素を生徒たちだけで教え合いながら考えることができていた。

課題練習（仲間と教え合うグループ学習）の際にも、「教員による問いかけ(コーチング)」を用いたが、授業全体をとおして、ティーチングではなく「教員による問いかけ(コーチング)」を多くするようにしてきた。そのため生徒は、自ら気付き自発的に行動を起こすことが、よい結果に結びついたり、楽しかったりすることを理解しているようである。教員と生徒や生徒同士で対話している場面の生徒の表情は生き生きとしており、発言することを恐れず、また他者の発言を受け入れる姿勢ができていたことが見て取れた。

課題練習後には再びゲームを行った。指導のポイント4の「対戦相手等を配慮したルール作り」

として、本時の目標である「パスをつなぐ」ことに全員が挑戦でき、さらに拮抗したゲームになるルールを考えさせた。生徒たちは「パスが1本つながったらシュートを打てる」「ゴールを狭くする」「経験者の多いチームのタッチ数を少なくする」「女子の得点を10倍にする」など様々なルール設定の工夫ができるようになってきた。

生徒は、対戦チームとの力が拮抗していない場合のルール作りを工夫し、拮抗した試合展開を自分たちで作ることで、「スポーツは勝つと楽しい」ということだけではなく、「スポーツは、拮抗した試合をすることで、そのスポーツの楽しさを味わうことができる」ということを感じるようになってきたようである。このように、生徒自身が、勝敗を越えて全員でスポーツを楽しむための環境作りをすることで、以前は勝敗にこだわっていた生徒も、勝敗を冷静に受け止める態度が見られるようになった。

4 成果と課題

(1) 成果

本事例の成果として、次のことが挙げられる。

ア 公正、協力、責任の態度の育成

四つの指導のポイントを、単元をとおして活用することによって、公正、協力、責任の態度を育むことができた。

「対戦相手等を配慮したルール作り」をすることで、どのような相手であっても拮抗したゲームができる。拮抗したゲームはスポーツの醍醐味の一つである。「人を選ばないチーム作り」を組み合わせることで、その種目が得意な人も不得意な人も、仲が良い人も普段あまり交わらない人も、一緒にプレイをして楽しいことを実感させることができた。

また、ルールを自分たちで作って楽しいゲームができたことで、ルールがあるから守るのではなく、自分たちのためにルールがあることを生徒は理解できたと思われる。

「仲間と教え合うグループ学習」では、グループ学習でよい考えが出せたり、協力体制ができたりすると、楽しいゲームにつながるように課題を設定した。さらにコーチングと合わせることで、生徒は積極的に話し合い、チームの中で自分の役割を果たそうとする姿が見られた。

生徒に対して実施した事前アンケートと事後アンケートの比較でも、公正（図1）、協力（図2）、責任（図3）の項目全てにおいて「そう思う」と答えた割合が増加している。

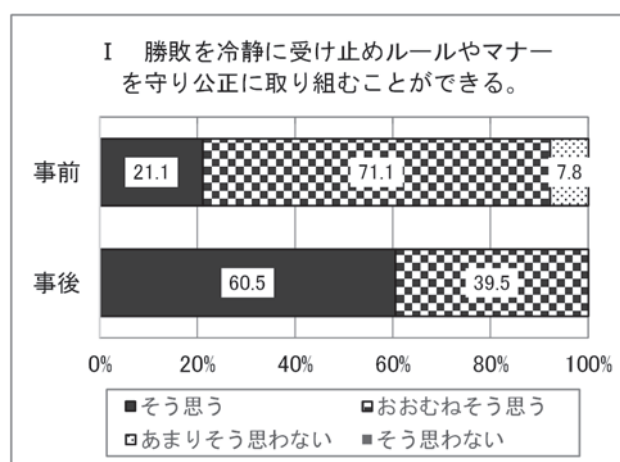


図1 事前・事後アンケートの比較（公正）

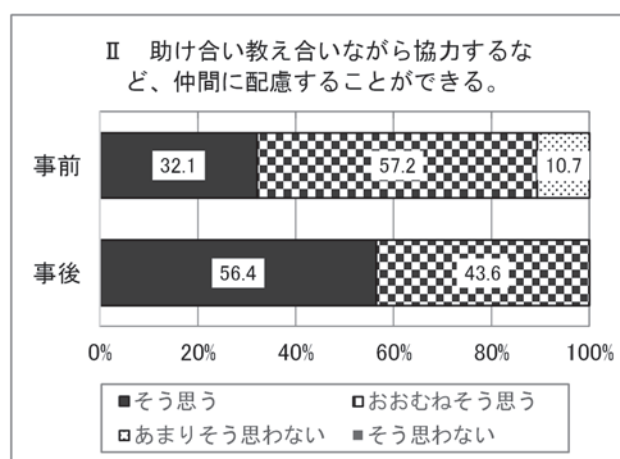


図2 事前・事後アンケートの比較（協力）

公正では、「そう思う」と答えた割合が21.1%から60.5%に、「おおむねそう思う」を合わせると92.2%から100%になっている。協力では「そう思う」と答えた割合が32.1%から56.4%に、「おおむねそう思う」を合わせると89.3%から100%になっている。責任では「そう思う」と答えた割合が10.5%から33.3%に、「おおむねそう思う」を合わせると71.0%から97.4%に増加している。このことから、今回の取組が公正、協力、責任の態度を育成するのに有効であったと言える。

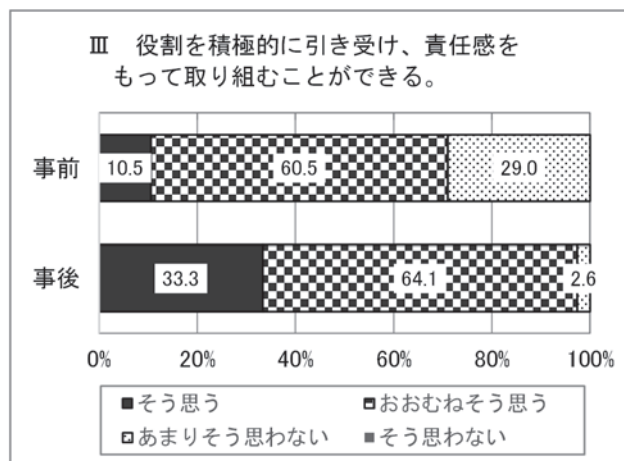


図3 事前・事後アンケートの比較（責任）

イ 問いかけ（コーチング）の効果

教員が方法等を直接教えるのではなく、生徒の答えを引き出していく問いかけ（コーチング）の効果は大きかった。生徒が記入したワークシートを見ると、教員が伝えたいことに、生徒は自分で考えてたどり着いていることが読み取れた。また、授業中の生徒の様子からは、自ら引き出した答えを実践してみようとする姿や、対話によって理解を深めようとする姿が見られた。事前アンケートと事後アンケートとの比較でも、「自ら課題解決をしながら、運動を実践できる」という項目（図4）で、「そう思う」と答えた割合が7.9%から30.7%に、「おおむねそう思う」を合わせると55.3%から94.8%に増加した。

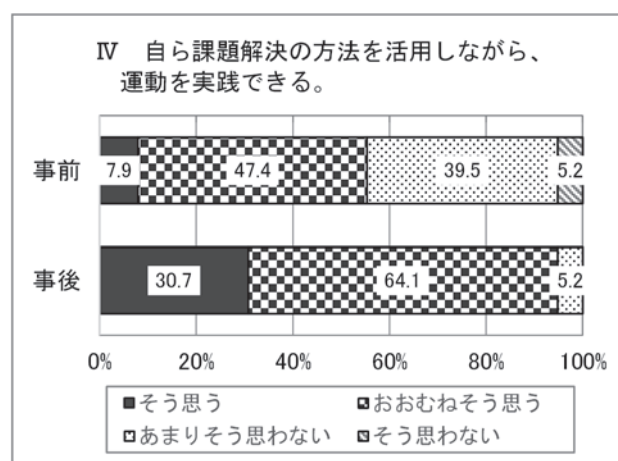


図4 事前・事後アンケートの比較（課題解決）

今回の生徒たちの活動は、率先して行動する「自主的」というよりも自分たちで考え判断して行動する「主体的」な活動であった。教員の問いかけが生徒の主体性と対話を引き出すことにつながったと言える。

(2) 課題

コーチングによって、生徒に問いかけながら主体性を高める授業においては、学習効果を高めるために教師の高い専門性は必須である。本事例も教員の専門種目でなければ、スムーズに展開することが難しかったと考えられる。教員が全ての単元の専門性を高める努力をするとともに、ICTを活用したり、ワークシートを工夫したりするなど、入念な準備や指導資料等の工夫がますます重要になると感じた。

〔参考文献〕

- ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編』（平成21年）
- ・池上正監修 清水英斗編著『池上正の子どもが伸びるサッカーの練習』池田書店
- ・田中浩之『アクティブ・ラーニング「深い学び」実践の手引』教育開発研究所
- ・『ステップアップ高校スポーツ2017』大修館書店

事例2 保健「健康の保持増進と疾病の予防」の指導の工夫 ～ 対話を通した深い学びを目指して ～	
単元名	現代社会と健康「健康の保持増進と疾病の予防」
これまでの課題	アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善には、これまでも取り組んできた。しかし、対話を通して生徒が思考している内容は、授業で得た知識を答えたり、経験から該当することをただ選び答えたりするなどの、表面的で深まりのないものになっていると感じていた。
授業改善のポイント	保健の授業における対話を、表面的なものから深い学びにつなげるために、本事例では「思考して問い続ける」ことに着目した。生徒が思考し問い続けられるように発問や学習活動等を工夫し、思考力を育成することを目指した。

1 指導観

(1) 本単元について（教材観）

我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康についての考え方も変化するとともに、様々な健康への対策、健康増進の在り方が求められている。本単元では、生活習慣病、喫煙、飲酒、薬物乱用、感染症と健康について、ヘルスプロモーションの考え方に基づいて、健康問題の理解や行動選択等ができるようにする。

(2) 生徒の実態（生徒観）

本校ではアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善を推進しており、各教科で対話的な授業が展開されている。そのため、生徒は対話することに慣れており、意見交換は活発にスムーズに行われる傾向がある。

保健の授業においては、生涯を健康に生きていくために、まずは生徒自身が健康問題を自分のこととして捉え、様々な意志決定ができるようになることが重要である。しかし、グループ学習等の生徒の様子からは、意見交換は活発にするものの、自分のこととして捉えきれず、対策や予防策等を考えてもどこか他人事として捉えている様子が見て取れる。

(3) 生徒に身に付けさせる力（育成を目指す資質・能力）

- 健康の保持増進と生活習慣病の予防や、喫煙、飲酒、薬物乱用と健康、感染症の予防について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようになる。
- 生活習慣病と日常の生活行動、喫煙、飲酒と健康、薬物乱用と健康、感染症とその予防について、学習したことを基に、個人及び社会生活や事例等と比較したり、評価したり課題を見つけたりするなどし、生涯の健康と結び付けながら筋道を立ててそれらを説明することができるようにする。
- 生活習慣病の予防には、食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践する必要があること、喫煙と飲酒、薬物乱用の対策には、個人や社会環境への対策が必要であること、感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いが見られること、さらにその予防には、個人的及び社会的な対策を行うことが大切であることを理解できるようにする。

2 単元の指導計画及び評価計画

(1) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
①生活習慣病と日常生活行動について、資料を読んだり、自己を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 ②感染症とその予防について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	①生活習慣病と日常生活行動について、資料等で調べたことと自らの健康を照らし合わせて、課題を見つけたり、解決の方法を整理したりするなどして、それらを説明している。 ②喫煙、飲酒と健康、薬物乱用と健康、感染症とその予防について個人及び社会生活や事例と比較し、評価したり課題を見つけたりしている。また、筋道を立ててそれらを説明している。	①生活習慣病を予防し健康を保持増進するために、必要な食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活について理解したことを書き出している。 ②喫煙、飲酒は、生活習慣病の要因となり、個人や社会環境への対策が必要であることについて、理解したことを発言したり書き出したりしている。 ③薬物乱用は、心身の健康、社会の安全に影響をもたらすものであり、決して行ってはならないこと、個人や社会環境への対策が必要であることについて、理解したことを発言したり書き出したりしている。 ④感染症は時代や地域によって自然環境や社会環境の影響を受けること、その予防には個人及び社会的な対策が必要であることについて、理解したことを発言したり書き出したりしている。

(2) 単元の指導計画及び評価計画

時	目標	学習活動	評価の観点			評価方法
			関	思	知	
1	【生活習慣病と日常生活行動】 生活習慣病について理解し、生活習慣病と日常生活行動には深い関係があることを理解する。	- 我が国の死因順位や疾患患者数の推移から健康問題について考える。 - 代表的な生活習慣病と日常生活行動の関係について理解するとともに、予防の大切さを理解する。		①	①	ワークシート 観察
2	【生活習慣病と日常生活行動】 健康的な食生活の重要性について理解し、自分の食生活について考える。	- 食事の意義について理解する。 - 健康的な食事のとり方を理解する。 - 自己のライフスタイルを振り返り、健康的な食生活について考える。	①	①		ワークシート 観察
3	【生活習慣病と日常生活行動】 健康の保持増進を図るための運動と休養の重要性について理解し、自分の生活の運動と休養について考える。	- 運動と休養の意義について理解する。 - 健康のための適切な運動と休養のとり方を理解する。 - 自己のライフスタイルを振り返り、健康的な生活にするための運動と休養の取り入れ方について考える。	①	①		ワークシート 観察

4	【喫煙と健康】 喫煙の健康影響について理解し、喫煙者・非喫煙者に対し、今後どのような対策がとられるとよいか考える。	・たばこの煙の有害物質やその健康影響を理解する。 ・喫煙による健康被害を防ぐための対策を考える。		②	②	ワークシート 観察
5	【飲酒と健康】 飲酒の健康影響について理解し、飲酒による社会問題について今後どのような対策がとられるとよいか考える。	・飲酒による健康影響や社会問題について理解する。 ・飲酒の健康被害を防ぐための対策について考える。		②	②	ワークシート 観察
6	【薬物乱用と健康】 薬物乱用が心身の健康に及ぼす深刻な悪影響を理解するとともに、薬物乱用防止のための対策について考える。	・体験談を読むことで薬物乱用の健康影響について知るとともに、薬物乱用は決して行ってはならないことを理解する。 ・薬物乱用を開始する背景について理解し、薬物乱用防止のための対策について考える。		②	③	ワークシート 観察
7	【感染症とその予防】 感染症の発生や流行は、自然環境や社会環境の影響を受けていることを理解し、現在の環境における問題点を考える。	・新興感染症や再興感染症の発生や流行について理解する。 ・感染症に対する現在の対策や自然環境等から、感染症対策の問題点について考える。	②		④	ワークシート 観察
8	【感染症とその予防】 性感染症・エイズの特徴を理解する。また、性感染症・エイズの予防のための対策について考える。	・エイズの特徴等について理解する。 ・体験談を読んで、エイズになった場合の対応を考えることにより、エイズを身近なものとして捉え、さらなる基礎知識の定着を図る。 ・エイズに対する個人及び社会的対策を考える。	②		④	ワークシート 観察
9	【感染症とその予防】 前時で考えたエイズに対する対策を基に、より具体的な対策を考える。	・エイズに対する個人及び社会的対策を考える。	②	②		ワークシート 観察

3 授業の様子

(1) 対話を深い学びにつなげるために

本事例では、生徒の対話を表面的なものから深い学びにつなげることが目的である。

新たな学びに関する教員の資質能力向上のためのプロジェクト（独立行政法人教職員支援機構

次世代型教育推進センター）では、「資質・能力の育成を目指す主体的・対話的で深い学び（実現したい子供の姿）」（試案）を示している。そのうちの、「深い学び」を実現する子供のイメージ例が図1である。

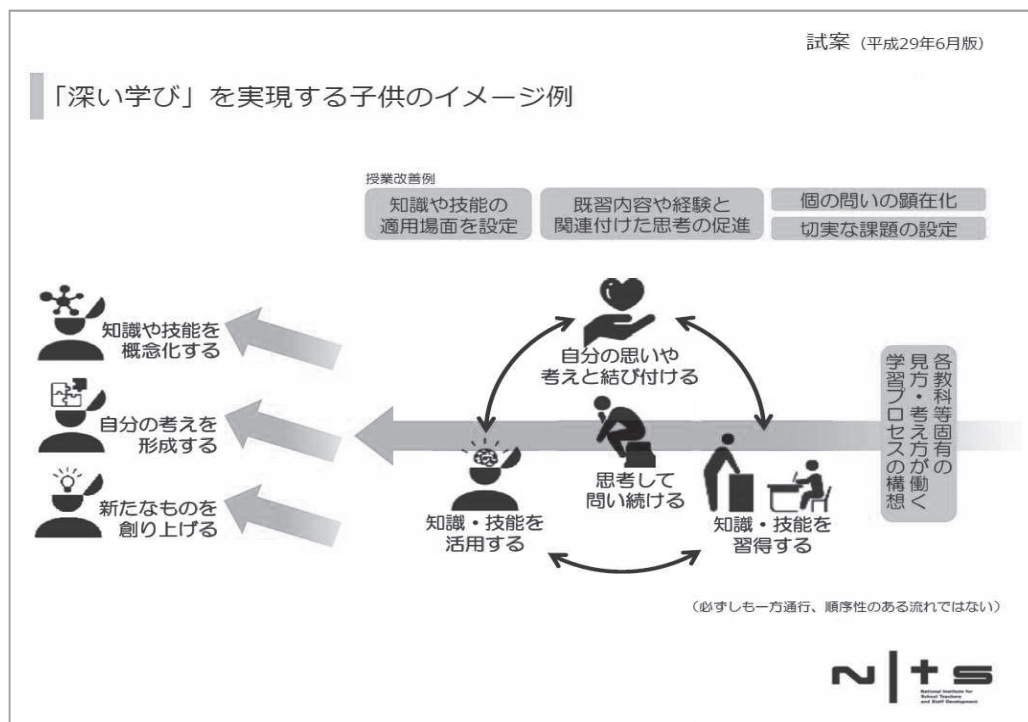


図1 資質・能力の育成を目指す主体的・対話的で深い学び（実現したい子供の姿）
（独立行政法人教職員支援機構次世代型教育推進センター）

対話を深い学びにつなげるために、今回着目したのがこの図にある「思考して問い続ける」ということである。これまでも保健の授業の中で、学習内容と自分の考えとを結び付けたり、学んだことを活用して考えたりすることを通して、健康課題に対する新たな社会的対策をつくらせるなどの学習活動を実施してきている。しかし、ほとんどが単独の取組であり、一度考えたら終わりになっていたのが現状である。また、保健の目標は、健康に関する個人の適切な意志決定や行動選択及び健康的な社会環境づくりなどをしながら、生涯を通じて自らの健康を適切に管理・改善していけるようにすることである。変化していく自分自身や環境を捉え、適切な意志決定や行動選択等をしていくためには、まさしく生涯にわたって「思考して問い続ける」ことが必要とも言える。

今回の取組では、「思考して問い続ける」ために必要なことは、一つの課題に対して、生徒が結論を出した後にも「本当にそれでよいのか」と考えることであると設定して、授業改善に取り組んだ。

(2) 授業展開

単元9時間中の第8時、第9時である。「思考して問い続ける」ための学習活動に絞って取り上げ、詳しく述べる。

Aから**D**のそれぞれの学習活動で、個人やグループの考えをまとめさせた。**C**、**D**それぞれの学習活動では、新たな視点や知識を与えることで、前の学習活動でまとめた内容に対して「本当にそれでよいのか」という気付きを与え再考させた。

なお、学習活動**A**、**B**については、それぞれ活動の前に、生徒が思考するための知識として、エイズに関する基本的な内容や対策の具体例等を説明している。

A「エイズ患者の体験談を読んで個人の対応策を考える」(グループ)

- ☆考えるベースになること
- ・エイズに関する基本的な知識
 - ・エイズ患者の状況や心情

体験談を用いることで、エイズ患者の心情を理解するとともに、エイズに関する基本的な内容についても理解が深まるようにした。

【生徒が考えた対応策】

- 「勇気を振り絞って病院に行く」
- 「現実を受け入れて正しい知識を得る」
- 「信頼できる人に相談する」

◆エイズ患者の辛い心情は理解しているが、「エイズ患者ができなくて悩んでいる」ことに対して、対応策が「やるしかない」という、あまり建設的ではない意見が多い。



B「Aで考えたことや、現在取り組まれているエイズに対する個人的対策や社会的対策を踏まえて、予防策を考える」(個人)

- ☆考えるベースになること
- ・実際の対策の具体例やその効果

個人で予防策を考えることで、生徒一人一人が、次の学習活動に自分の意見をもって臨めるようにした。

【生徒が考えた予防策】

- 「H I V抗体検査を義務化する」
- 「エイズを予防する薬を開発する」
- 「正しい知識をもてるような取組をする」
- 「夫婦で保健所に行く」

◆特に社会的対策は具体性がないものも多く、エイズを予防するために本気で考えているというよりも、何かを考えなければならぬから考えたという印象を受けた。



C-1「Bで考えたことをグループで実現可能か討論する」(グループ)

- ☆考えるベースになること
- ・自分が考えた予防策が有効であるという根拠(これまで学習したことを基に)

討論形式にすることによって、生徒が予防策を考えるうえでの新たな視点を与えた。

【討論後の生徒の意見】

『H I V抗体検査を義務化する』について
「生活習慣病検診の項目に追加すれば全員受けられると思ったが、生活習慣病検診を全員が受けているかどうかをきちんと知らないことに気付いた。」
「生活習慣病検診の項目に追加したら、H I V感染者は、毎年感染しているという結果をもらうのかと聞かれて、人の状況や気持ちを考えていなかったことに気付いた。」
「義務化するよりも検査を受けやすい環境を作った方がいいと思った。でも具体的にどうすればいいかと思いつかなかった。」

◆討論の形式を取り入れたねらいは、新たな視点を与えることで「本当にそれでよいのか」と生徒が考えるきっかけにするためである。その場で意見に対して回答ができる生徒は少なかったが、生徒からはもっと良い対策を考えたいという姿勢が見られた。



C-2「討論の内容を生かして予防策を進化させる」(グループ)

- ☆考えるベースになること
- ・インターネット等で調べたこと
 - ・友人や教員の意見

D「図2の事例1～3について、それぞれの事例に対するあなたの行動を比較する。その違いから気付くことを基に予防策を改善する」(個人→グループ)

☆考えるベースになること

- ・目に見えることと見えないことで対応の違いがあつてよいか。
- ・大切な人とその他の人とで対応の違いがあつてよいか。

あえてエイズと関連がなさそうな事例を取り上げることで、生徒の視野を広げた。

【生徒の意見】

「検査を義務化するよりも検査を受けやすい環境づくりをした方がいいと、途中で考えを変えたが、義務化についてきちんと考えていないのに、どちらがいいとは決められることではなかったと感じた。」

「私たちは決めつけて行動していることが多いのだと思った。体験談の登場人物が、HIV感染者を避けていたのは、エイズは恐いものだ勝手に決めつけているからだと思った。考えるときには問い直すことがとても大事だと思った。」

◆状況が違う事例では、その対応も違って当然である。しかし、それを当然と受け止めず、本当に違って当然かどうか考えることで、予防策についてさらに深く考える視点となった。一見当然だと思うようなことでも「本当にそれでよいのか」と考える必要性を感じてくれたようである。

14 性感染症・エイズとその予防②

1年 組 番 氏名

○下記の事例について、その人の立場になって考え、あなたが取るべき行動を考えよう。」

【事例1】
障害者（車いす利用者）が急勾配の長い坂道の前で突然と立ち尽くしていました。」

【事例2】
エイズ患者が急勾配の長い坂道の前で突然と立ち尽くしていました。」

【事例3】
自分の1番大切な人がエイズに発症しました。その人が急勾配の長い坂道の前で突然と立ち尽くしていました。」

	その人の立場は？	あなたが取る行動は？
事例1		
事例2		
事例3		

○エイズ患者を出さないための対策は？」

○エイズ患者に対する行動の在り方について80字以内でまとめよう。」

図2 ワークシート



図3 授業の様子

4 成果と課題

(1) 成果

本事例では、思考して問い続ける学習活動を取り入れたことで、対話が深い学びにつながったことが成果として挙げられる。

生徒は、自分の考えをまとめた後に、「本当にそれでよいのか」という気付きを得ることで、ただ何となく話し合うのではなく、理由や根拠を探したり、異なる多様な考えを比較したりしながら、友人と共にエイズの予防策を練り上げることができた。はじめから様々な視点を与えられるよりも、一度自分の考えをまとめてから新たな視点を得ることで、エイズの予防策をより自分

のこととして捉えることができたり、自分の考えを友人に納得してもらうためにより良い予防策を考えようとする姿勢につながったりしたと思われる。

また、気付きが考える方向性を示してくれたことで、学習活動の見通しをもつことができ、主体的な活動にもつながった。

生徒の授業後の振り返りには、「エイズに限らないが、言葉を交わして相手がどんなことを考えているのかきちんと理解するように心掛けたい。」や、「簡単そうな対策でも、色々なことを考えてつくらなければ、社会の中ではうまくいかないんだなと思った。」「他人事ではなく、エイズ患者を出さない環境を作っていくためにはどうすればよいか考えないといけないと思った。」などの意見があった。最初はエイズについて表面的にしか考えられず、どこか他人事にしまっていた生徒も、思考して問い続けることで、健康を支えることの本質的な意義を深く考えることができたと思われる。

(2) 課題

ア 思考力以外の力に着目した授業改善

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善は、今回取り組んだように思考力を育むために有効な手段である。さらには、知識を身に付けるためにも有効と言われている。

保健に関する知識については、本事例の単元のように中学校で学習している内容も多くあるが、知識の定着が図れていないと感ずることがある。高校で学んだ知識も同様で、試験が終わってしまえば知識は定着せずに忘れてしまう生徒が多い。今後は、思考力だけでなく、知識を身に付けさせるという点にも着目して「主体的・対話的で深い学び」を重視した授業改善を図っていきたい。

イ 「思考して問い続ける」際に、健康に関する様々な内容との関連を図ること

今回の取組では、エイズに関する内容について「思考して問い続ける」学習活動を行った。しかし、本来健康は様々な事柄が関連して成り立っている。授業においても、これまでに学んだ内容を関連させながら総合的に思考し、問い続けるような学習活動も行っていきたい。

〔参考文献等〕

- ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編』（平成 21 年）
- ・田中博之『アクティブ・ラーニング「深い学び」実践の手引き』教育開発研究所
- ・『H I V/エイズの基礎知識』公益財団法人エイズ予防財団
- ・宮本友弘「学習者が抱えている『素朴概念』とは」（『体育科教育』2017 年 8 月号）
- ・独立行政法人教職員支援機構次世代型教育推進センター

「資質・能力の育成を目指す主体的・対話的で深い学び（実現したい子供の姿）」（試案）※

<http://www.nits.go.jp/jisedai/achievement/jirei/>

※「資質・能力の育成を目指す主体的・対話的で深い学び（実現したい子供の姿）」の図は更新されています。